

植木センターだより

令和3年 第2号 (Vol. 143)



ムクゲ(雉鳩)

ムクゲは、梅雨が明けるころ夏の日差しの中で大きな花を咲かせます。アオイ科フヨウ属の仲間です。夏の茶花として愛されています。花は短命（1～2日）ですが、次々と咲き続けます。

植木センターでは、本館東側のほ場の周囲に様々な色や形の品種約30種が植栽されており、6月下旬から咲き始め、9月ごろまで見られます。

目次

研修レポート「盆栽技術ゼミ」の現場から	2
調査研究の現場から「ポット生産における ルーピングの軽減についての調査」	3
緑化木の主要害虫 No.28 (クビアカツヤカミキリ)	5

研修レポート

「盆栽技術ゼミ—姫リンゴ—」

日時：令和3年6月15日 13時30分～16時30分
講師：芳津園 園主 津坂昇一

植木センターでは、緑化用樹木の生産や造園に関わる研修を実施しています。造園の基礎研修、造園の設計、業務に必要な資格取得研修などです。また、身近な緑・樹木についての知識や活用方法を習得する樹木学習や一般研修もあります。今回は、そのような講座の中から稲沢の当地方ならではの研修「盆栽技術ゼミ」を紹介します。

講師は、植木センター開所当時から40年近く、研修で講師を務めていただいている盆栽家の津坂昇一さんです。

今回のテーマは「姫リンゴ」を教材として盆栽の基本技術、培養管理法などを研修しています。

盆栽では、題材となる植物の本来の生理・生態を考慮しながら、盆栽独自の剪定、葉づくりと仕立て方、整姿、実の成らせ方等、多様な技術が要求されます。

今年度は、既に5月から始まり6月には2回目となりました。コースは4回で時期ごとの手入れや管理方法を習得します。

また、併せて受講者の手持ちの盆栽の芽切り、針金かけ等の指導を行っています。

最近、コロナ禍にあって在宅勤務が多くなる状況で、庭づくりも含めて盆栽など身近な植物を育てることが見直されています。皆様もいろいろ挑戦してみてはいかがでしょうか。



講師の津坂昇一さん



盆栽の模範実技の受講風景



盆栽ごとに丁寧な指導

(参考) 愛知県園芸発達史 (1979) によれば、稲沢地方は植木の産地とともに盆栽の産地でも有名で「稲沢市 (原文は中島) と名古屋の盆栽産地は種木の採取や苗木の生産に恵まれた環境と優れた増殖、培養の技術を活用して急速にわが国の有数の産地に発展した。」と記されています。

－調査研究の現場から－

愛知県植木センターでは、植木生産の効率化、技術の向上などを図るため、調査研究を行っており、令和3年度は次の3課題に取り組んでいます。

- ・緑化木の耐暑・耐乾対策についての調査（R 1～3）
- ・樹種の特性を活かした生垣づくりについての調査（R 2～4）
- ・ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査（R 3～5）

ここでは、今年度から新たに取り組んでいる「ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査」の実施状況を紹介します。

ポット生産におけるルーピングの軽減についての調査 (令和3年度～5年度)

1 調査目的

ポットで緑化木を生産する場合、ルーピング（根がポットの内面に沿って伸長し、とぐろを巻いたようになる現象）を起こすと、定植後の初期成長が抑えられ、生育不良となることがあるため、健全な生育を促進するためには、ルーピングを軽減して細根を発達させることが大切です。

そこで、根の生長に少なからず影響を及ぼすと考えられるポットの水抜き穴に着目し、水抜き穴の数量や配置、形状などが異なるポットを使用して苗木を育成し、根の生長との関連を調査します。

また、ポットの色により光の透過率が異なり、根の生長に影響を及ぼすことが考えられますので、併せて関連を調査します。

2 調査内容

(1) ポットの種類（水抜き穴の配置等）

次の4種のポット（a～d）で苗木を育成して根系の発達状況等を調べます。

- ① 素材：PE（ポリエチレン）、サイズ：12.0cm、色：黒及び半透明
 - a 底部の中心に1穴
 - b 底部の中心に1穴+角に4穴
 - c 底部の中心に1穴+側面に8スリット
- ② 素材：PP（ポリプロピレン）、サイズ：DF4.5（約13cm）、色：黒
 - d 側面に多数のスリット及び底部に多数の細かな角穴



<使用ポット>

手前（黒）・奥（半透明）ともに左から

a（底部の中心に1穴）

b（底部の中心に1穴+角に4穴）

c（底部の中心に1穴+側面に8スリット）

右端

d（側面及び底面に多数のスリット、角穴）

(2) 樹種

この地域で、ポット生産されており、ルーピングを起こしやすい下記の6樹種を対象とします。

サザンカ、キンメツゲ、レッドロビン、ヒメシャラ、イロハモミジ、ラカンマキ

(3) 調査内容

① 地上部の生育状況

- ・根元径、樹高を定期的に計測します。

② 根系の発達状況

- ・ルーピングの発生状況を確認します。

調査樹種の根の状況(鉢上げ時)



サザンカ



キンメツゲ



レッドロビン



ヒメシャラ



イロハモミジ



ラカンマキ

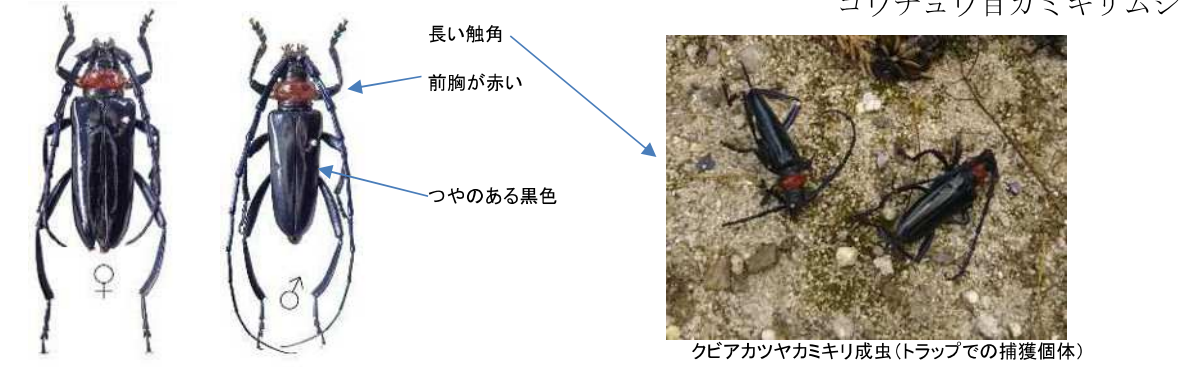
育苗状況(鉢上げ後)



緑化木の主要害虫 No.28 (番外編)

クビアカツヤカミキリ

コウチュウ目カミキリムシ科



幼虫(体長約25mm)



フラスの状況(ウメ)



根の穿孔状況(薬剤処理したサクラ)

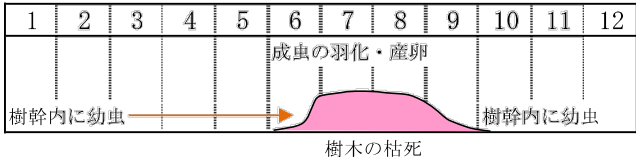
1. 発生樹種と発生状況

サクラ、ウメ、モモ、スモモなど（主にバラ科の樹木）
 中国、モンゴル、ベトナム等に分布しています。日本では、2018年に特定外来生物に指定されました。
 愛知県西部で平成24年（2012）に初めて確認され、被害区域が広がりつつあります。国内では埼玉県、群馬県、東京都、大阪府、徳島県、栃木県など確認され、他県にも拡大している状況です。
 侵入経路としては、輸入木材や梱包用木材、輸送用パレットなどに幼虫が潜んだまま運ばれてきて、国内で成虫に羽化し、繁殖したものと考えられています。

2. 害虫の特徴（発生時期、形態等）

クビアカツヤカミキリは、成虫が大きさ2～4cmの黒いカミキリムシで、胸の部分が赤いことが特徴です。サクラ・ウメ・モモなどの主にバラ科の樹木に寄生し、枯死させる外来種です。

繁殖力が強く、1匹の雌が100個以上もの卵を産み、幼虫は樹木の内部に2～3年過ごし、大量のフラス（木くず、コスカシバのものより粗い）を出すのが特徴です。



成虫は6月ごろ出現して交尾や産卵を行います。

3. 被害の特徴

樹木を幼虫が食い荒らすため、寄生した樹木が弱り、枯死する原因となります。公園や市街地の街路樹、果樹、庭木などに生息し、成虫が飛翔して産卵するので被害が拡大します。

4. 対策

成虫は、見つけ次第、被害拡大防止のため、殺虫剤などで捕殺してください。枯木を伐倒した場合は、根株に幼虫が残ることがありますので、注意してください。

特定外来生物は外来生物法により、飼育・保管・移動・野外に放つことなどが原則として禁止されています。このような状況を発見したら関係機関に連絡・相談してください。

令和3年6月 Vol.143 編集：(公財)愛知県林業振興基金植木センター管理事務所
 〒492-8405 稲沢市堀之内町花ノ木129
 発行：愛知県植木センター TEL 0587-36-1148 FAX 0587-36-4666